

日本筆記具工業会ニュース

JWIMA (Japan Writing Instruments Manufacturers Association)

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL(03)3891-6161 FAX(03)3802-9692

発行：日本筆記具工業会 広報委員会 2002.7.1/003号

第1回通常総会開催 14年度事業計画決定

日本筆記具工業会は、平成14年度の事業計画を決定しました。これは本工業会の実質初年度の事業計画になります。

発足以来の経緯は次の通りです。5つの工業団体が統合して発足した本工業会は、業界の発展に役立つ具体的事業内容を探ることを目的に「工業会の運営に関する会員アンケート」を実施しました。このアンケート結果を受けて、5つの委員会委員長が中心になって委員会等を招集し、「事業計画(案)」を起案。これを4月に開催した理事会に諮り、この成案を5月13日に上野精養軒で開催した第1回通常総会にて審議しました。数原英一郎会長を総会議長に選出し、平成14年度事業計画を含む3つの議案を満場一致で承認しました。

<日本筆記具工業会 平成14年度事業計画>

総務委員会

(委員長：横井文夫副会長)

- 会員募集に係る諸活動
- 会議の年間予定
 - 通常総会の招集(原則5月)
 - 会員懇親会の開催(原則12月/本年は12月19日に決定)
 - 理事会の招集(原則4月, 5月, 10月, 12月/本年は10月8日, 12月19日に決定)
 - 委員会の招集(原則3月, 9月)
 - その他, 必要に応じて委員長が招集する。
- 会員の相互交流に係る諸活動
 - 懇親会, 工場視察, 講習・講演会等, 他

流通委員会

(委員長：池野昌一副会長)

- 流通調査研究
- 輸入筆記具流通に関する調査研究
- 環境マーク制度に関する調査研究
- お客様相談窓口連絡会の設置, 他

調査研究・広報委員会

(委員長：石川真一副会長)

- 国内外の筆記具統計資料の収集と情報提供
- 独自調査の実施
 - 中国筆記具市場/我が国筆記具工業の生産・調達の多国籍化に関して, 他
- 情報化対応に係る諸活動
 - 工業会内通信手段として「インターネット」の活用/工業会ホームページの開設
- 工業会のニュース発行(年4回発行), 他

技術委員会

(委員長：西村貞一副会長)

- 工業標準化に関する活動
 - 工業標準化に関する情報収集と提供/J I S 原案作成及び改正作業
- 国際規格等の情報収集と提供
 - I S O (国際標準化機構), E N (欧州規格), B S (英国規格), D I N (ドイツ規格協会), N F (フランス国家規格), A S T M (米国材料試験規格)等を対象とする。

頁2に続く ⇨

- ISO国内審議団体活動(経産省移管)
ISO, TC10(製図製品の規定と関連文書), SC9(製図機器及び製図用具)に係る規格作成及び改正に関する審議及び提案
- PL(製造物責任)法に関する調査研究
- 安全性・環境配慮に係る調査研究
我が国の安全環境関連法令, 環境マーク制度に関する情報収集/国内外の安全・有害物規制に関する情報の収集と発信
- 技術・品質向上の調査研究
試験法, 評価法及び試験機器, 測定器等の統一等/消費者クレーム分析と技術的対応
- 知的財産権に関する調査研究
海外模倣品問題に関する調査研究(国際委員会, 流通委員会と連携)/「国際知的財産保護フォーラム(経済産業省他)」の活動を全文協と協調しサポート, 他

国際委員会

(委員長:小川洋平副会長)

- 日米欧の工業団体との連絡協調に係る諸活動
米国筆記具工業会(WIMA), 欧州筆記具工業会(EWIMA)等の工業団体との密接な連携。尚, 本工業会は全文協と共催してISO T2002で「模倣品対策」に関する種々の活動を行います。内容は頁4の通り。お立ち寄りください。

<役員の変動>

14年度通常総会で次の役員の変動が承認されました。(平成14年5月付)

副会長 横井文夫(株)パイロット副社長)

理事 角井 修(株)千代田塗装工業所会長)

(以上, 総会報告)

委員会/部会報告

総務委員会(横井文夫委員長) 委員9名

14年度 第1回 (4.12)○14年度第1回通常総会提出議案, 及び総会運営について審議。

14年度 第2回 (6.26)○優良工場見学会, 年末懇親会・講演会, 工業会組織図作成等について協議。

知的財産部会(長岡隆一郎部会長) 部会員14名

14年度 第1回 (5.24)○ISO T2002における模倣品に対策についての諸活動の運用に関する協議。

14年度 第2回 (6.21)○中国筆記具業界の現状を把握し, 模倣品被害の実態を明らかにするため, 本年度から広州, 香港, 北京の見本市で製品カタログを収集, この分析に入った(国際委員会との協同事業)。○「中国における模倣品被害の具体的事例調査報告書」(東京都産業労働局商工部編)について事務局から報告。○知的財産権に関する会員への意識調査アンケート実施について審議。○ISO T2002セミナー「中国の模倣品対策の現状と今後について」の運営を協議。

4月16日活動 「国際知的財産保護フォーラム」(経済産業省等主催)の発足式に本工業会を代表して参加。筆記具工業の知財権を保護するため全文協と協同して, 二国間交渉等の対応要請を行っていくこととした。

鉛筆及びそのしんJIS/ISO部会

(西本洋二部会長) 部会員11名

14年度 第1回 (5.23)○クレーム対応マニュアルの整備: お客様から寄せられた鉛筆に関するクレームの内容を持ち寄り, これに対応する統一的な標準マニュアルの作成に入ることを決定。鉛筆しん, 及びシャープナーの両面から問題点を洗い, お客様満足の上を目指す。○海外の安全基準につき情報交換: 画家用色鉛筆の耐光性の基準, 14歳以下の者が使用するものに含まれる有機化合物の規格化の動き等について, 海外のホットな情報の交換を行った。○レコード式画線機について: 三菱鉛筆(株)に委嘱した業界統一「新規レコード式画線機」の仕様につき同社若田昌志氏から説明があり, 部会はこれを承認した。引き続き, 開発費に関して審議, 事務局からの提案で公的助成金をリサーチすることになった。さらに, 三菱鉛筆提案をボールペンとマーキングペンの筆記試験機にも展開したいとの提案があり, この具体化に向けて調査・検討することにした。

事務局からのお知らせ

★「米国における鉛筆大量消費社会に関する調査報告書」(東京都産業労働局商工部編)を事務局は編集・発行しました。本調査は都の地場産業支援の助成で実施したものです。米国の鉛筆産業の付加価値創造と量的拡大のマーケティング手法についてレポートされています。

★「中国における模倣品被害の具体的事例調査報告書」(東京都産業労働局商工部編)が東京都から発行され, 本工業会はこれを会員に配布しました。

2002年1月～3月の出荷・輸出・輸入

雑貨統計（国内向け販売と輸出向け販売を含む）

（金額は百万円）

| 出荷 | 単位 | 2002年1-3月度 | | 2001年1-3月度 | | 前年同期変動率 | |
|----------|----|------------|--------|------------|--------|---------|----------|
| | | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量% | 金額% |
| ボールペン | 千本 | 335,115 | 17,439 | 393,391 | 19,799 | Δ 14.8 | Δ 11.9 |
| マーキングペン | 千本 | 183,123 | 9,687 | 200,801 | 10,483 | Δ 8.8 | Δ 7.6 |
| シャープペンシル | 千本 | 71,756 | 4,962 | 74,296 | 5,487 | Δ 3.4 | Δ 9.6 |
| 鉛筆 | G | 935,929 | 3,075 | 986,961 | 3,275 | Δ 5.2 | Δ 6.1 |
| シャープしん | 千本 | 1,051,64 | 2,038 | 1,169,554 | 2,214 | Δ 10.1 | Δ 7.9 |
| クレヨン・パス | 千本 | 47,813 | 733 | 48,629 | 767 | Δ 1.7 | Δ 4.4 |
| 水彩絵の具 | 千本 | 18,798 | 752 | 18,677 | 769 | 0.6 | Δ 2.2 |
| 修正液 | 千本 | 14,903 | 1,444 | 15,897 | 1,662 | Δ 6.3 | Δ 13.1 |
| 修正テープ | 千個 | 14,278 | 1,676 | -- | -- | -- | -- |
| 合計金額 | | | 41,806 | | 44,456 | | (Δ 9.7)※ |

※の変動率は目安です。修正テープを除く8品目総額の前年同期比です。

Gはグロス（144本）

2002年の数量・金額は年報等と若干異なる場合があります。

◎2002年第1四半期（1～3月）の出荷合計は418億円で、前年同期より約30億円マイナスになった。出荷金額は全品目で減少した。今期から「修正テープ」が統計対象になり、金額規模で8品目中、第6位につけた。輸出は、内容面で変化があったものの、ほぼ横ばいだった。前年同様、鉛筆の輸出減が目立った。輸入は40億円台に達し、前年同期5.4%増と着実にシェアを拡大、国内（完成品）マーケットで約1割強の市場を持つ勢力になったことが金額から推定できる。

◎品目別に見ると、輸出不振が原因と推定できるボールペンは今期も苦戦したが、シャープペンは輸出を挽回させた。鉛筆の輸出は前述通り大幅に後退、逆に輸入は2桁台で増加した。輸入鉛筆(kg)をグロスに換算すると今期約55万Gに達する。これは国内向け出荷数量の6割、金額の1割に相当する。

◎完成品の出荷から輸出を除き、輸入を加えた「国内消費力推定」（1～3月）は前年同期比「マイナス6.3%」で、前期(-1.4%)よりさらに悪化した。

日本貿易統計

（金額は百万円）

| 輸出 | 単位 | 2002年1-3月度 | | 2001年1-3月度 | | 前年同期変動率 | |
|---------------------|----|-------------|--------|-------------|--------|---------|--------|
| | | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量% | 金額% |
| ボールペン（油性） | 千本 | 90,742 | 3,305 | 253,014 | 10,179 | Δ 10.3 | Δ 5.2 |
| ボールペン（水性） | 千本 | 136,151 | 6,340 | | | | |
| マーキングペン | 千本 | 73,319 | 3,317 | 75,278 | 3,329 | Δ 2.6 | Δ 0.4 |
| シャープペンシル | 千本 | 43,889 | 2,111 | 39,028 | 2,086 | 12.5 | 1.2 |
| 万年筆 | 千本 | 1,249 | 156 | 1,082 | 121 | 15.4 | 28.9 |
| 以上のセット品 | 千S | 482 | 61 | 276 | 47 | 74.6 | 29.8 |
| 鉛筆 | G | 58,498 | 120 | 129,703 | 102 | Δ 54.9 | 17.6 |
| シャープ用しん（鉛筆しんを含む） | kg | 111,889 | 854 | 111,766 | 846 | 0.1 | 0.9 |
| クレヨン | kg | 11,112 | 28 | 8,622 | 29 | 28.9 | Δ 3.4 |
| | | (小計 16,292) | | (小計 16,739) | | | |
| ボールペン用中しん | 千本 | 50,979 | 737 | 41,294 | 566 | 23.5 | 30.2 |
| マーキングペン用ペン先及びニブポイント | 千本 | 932,408 | 1,435 | 904,620 | 1,465 | 3.1 | Δ 2.0 |
| シャープ部品・付属品 | kg | 28,869 | 180 | 45,753 | 252 | Δ 36.9 | Δ 28.6 |
| 万年筆及びボールペンの部分品 | kg | 259,922 | 855 | 233,723 | 919 | 11.2 | Δ 7.0 |
| 合計金額 | | | 19,499 | | 19,941 | | Δ 2.2 |

Gはグロス（144本）

日本貿易統計

（金額は百万円）

| 輸入 | 単位 | 2002年1-3月度 | | 2001年1-3月度 | | 前年同期変動率 | |
|---------------------|----|------------|-------|------------|-------|---------|--------|
| | | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量% | 金額% |
| ボールペン | 千本 | 48,131 | 1,696 | 33,755 | 1,434 | 42.6 | 18.3 |
| マーキングペン | 千本 | 34,857 | 506 | 48,041 | 554 | Δ 27.4 | Δ 8.7 |
| シャープペンシル | 千本 | 9,134 | 306 | 7,796 | 273 | 17.2 | 12.1 |
| 万年筆 | 千本 | 316 | 287 | 342 | 347 | Δ 7.6 | Δ 17.3 |
| 以上のセット品 | 千S | 567 | 66 | 457 | 35 | 24.1 | 88.6 |
| 鉛筆 | kg | 384,789 | 366 | 330,370 | 346 | 16.5 | 5.8 |
| しん | kg | 48,864 | 61 | 23,848 | 40 | 104.9 | 52.5 |
| パステル、チョーク | kg | 349,120 | 173 | 290,622 | 167 | 20.1 | 3.6 |
| | | (小計 3,461) | | (小計 3,196) | | | |
| ボールペン用中しん | 千本 | 13,323 | 129 | 8,321 | 81 | 60.1 | 59.3 |
| ペン先及びニブポイント | 千本 | 21,162 | 34 | 43,194 | 53 | Δ 51.0 | Δ 35.8 |
| ボールペン又はシャープの部品及び付属品 | kg | 129,366 | 367 | 142,082 | 419 | Δ 8.9 | Δ 12.4 |
| ペン軸、その他部分品 | kg | 20,797 | 56 | 33,411 | 92 | Δ 37.8 | Δ 39.1 |
| 合計金額 | | | 4,047 | | 3,841 | | 5.4 |

（鉛筆重量を本数に換算する目安：0.7kg=1グロス）

中国における知的財産権侵害について報告書は、「2001年各レベルで各種商標違法案件は約4万1千件に上り、取り消された違法な商標・ロゴは2億5千万点、押収された商標侵害行為に使用される模型・型等は1万4千点」と、その侵害状況を伝えています。報告書は中国との経済的関係を持つ中小企業を支援する目的で発行されています。

(以上、2つの報告書は残りわずかですがご希望者に提供できます。事務局までご連絡ください)

★「中国における筆記具市場の分析＝英語版」(2001/08発行)を事務局は購入しました。ペン、鉛筆の最大手生産・輸出国となった中国の現在を全7章で紹介。中国内需の成長性に関する分析もあります。ご希望者は事務局で閲覧ください。

★JWIMAホームページのトップページのデザインを募集します。

調査研究・広報委員会は、前述の通り本年度の事業計画として、会員間通信手段の合理化とリアルタイム化を目的に「JWIMAホームページ」を創設する計画です。このHPのトップページのデザイン、及び本工業会のロゴタイプのデザインを会員企業アーティストから募集します。こぞってご参加ください。応募要領は後日、送付します。

金融機関からの借入に「特例保証」が受けられる「特定業種」の指定がさらに3か月延長

万年筆・シャープペンシル・ペン先の製造業、ボールペン・マーキングペンの製造業、及び鉛筆の製造業は、平成14年4月1日～同年6月30日まで中小企業信用保険法第2条第3項第5号に係る「特定業種」の指定を受けたことを前号でお知らせし、会員の皆様から多数のお問い合わせをいただきましたが、このほど、この期間がさらに3か月延長する決定をいただきました。「特定業種」の指定は平成14年9月末日まで活用できるようになりました。

「特定業種」の指定とは――主要な原材料等の著しい減少、需要の著しい減少等が生じていることによって、この事業を行う中小企業者の事業活動に著しい支障を生じている業種について、中小企業信用保険法第2条第3項第5号の規定に基づいて「特定業種」として指定されます。指定された業種の中小企業は、手続きを踏まえて、金融機関から借入をする際に信用保証協会の「特例保証」を受けられます。特例保証を含む保険限度額は、普通保険4億円、無担保保険1億6千万円、特別小口保険2,500万円です。

(詳しくは事務局までお問い合わせください)

模倣品対策活動 始動

本工業会は(社)全日本文具協会(AJSA)と共催して、ISO T2002(7/11~7/13)の会期中に、「模倣品対策」についての種々の啓蒙活動を同会場を中心に展開します。

この活動の主体となるのは本工業会国際委員会(委員長)と技術委員会/知的財産部会(委員長)、及び全文協の技術・国際委員会/知的財産部会委員会(委員長)です。ご来場の際にはぜひお立ち寄りください。皆様のご協力をお願いします。

★模倣品防止啓蒙コーナーを設置します

場所：ISO T東ホール 小間番号1-37
(2小間)

内容：模倣防止に関する特許庁制作パネル掲示、会員企業の模倣被害事例の展示。

★模倣品相談コーナーを開設します

受付場所：東4ホール事務局室

受付時間：7月11日午後3時～午後5時

7月12日午後2時～午後5時

アドバイザー 弁理士 水野清先生

内容：模倣被害に遭われている企業の皆様からのご相談を受け付けます。(無料)

★模倣品対策セミナーを開催します

場所：東京ビッグサイト会議棟101会議室

日時：7月12日(金)午前10時から11時30分

主題：「中国の模倣品対策の現状と今後について」

講師：JETRO北京センター知的財産権室長・日高賢治氏

定員：80名(無料)

参加申し込みされたい方は事務局までご連絡ください。

★日米欧三極会談の開催

日時：7月12日(金)

内容：JWIMA, AJSA, WIMA, EWIMAの代表者による模倣品対策等に関する意見交換を行います。(非公開)

ISO T2002(第13回国際文具・紙製品・事務機器展)
/会期：2002年7月11日(木), 12日(金), 13日(土)/会場：
東京ビッグサイト 東4・5・6ホール ☎03-3349-8505